

天神祭2013の経済波及効果

宮 本 勝 浩
王 秀 芳

第1節 はじめ

「天神祭」は、全国の天満宮で催される祭りであり、祭神の菅原道真公の命日にちなんで25日前後に行われる。その天神祭の中で、大阪市で7月に行われる天神祭が最も有名である。大阪の天神祭は大阪天満宮が鎮座した天暦5年(951年)6月1日より始まったとされる祭りであり、1000年以上の歴史を持つ祭りである。そして、京都の「祇園祭」、東京の「神田祭」と並ぶ日本三大祭の一つである。この大阪を代表する天神祭は、毎年7月24日、25日に開催される。毎年周辺の人々をはじめ一般観客を含めて約130万人を超える観客がこの祭りに参加しているとされている。この大イベントの最後を飾るのが天神祭奉納花火である。約100隻の大船団のかがり火と数千発の花火が織りなす光景は訪れる人々を魅了している。

この天神祭は、地元の大阪市はもとより、大阪府全体の観光振興や地域活性化に大きく貢献してきていると考えられている。

本報告書は、天神祭2013の開催が地域経済に与えるインパクトを定量的に把握することを目的とし、天神祭2013の開催は大阪府内でどれほどの経済波及効果があるかを推計したものである。

推計の結果、大阪府内においては約229億円の経済波及効果があることが立証された。

第2節 直接効果の推計

直接効果の推計は、天神祭2013の関係者から入手した資料と、私どもが独自に調査したデータに基づいて計算されている。

直接効果は、主催側の運営費、奉納花火大会の費用、そして一般観客、地域住民観客、船渡御の一般乗船客、陸渡御・船渡御の特別観覧席の観客、周辺のホテルに宿泊する観客の消費支出と、天神祭の参加者、ボランティア、報道関係者、警察関係者、出店のスタッフなどのイベントの関連来場者の消費支出から構成されている。

(1) 主催側の運営費

本節では、主催側の運営費を計算する。天神祭の主催側の運営費のデータは、天神祭の関係者から入手したものである。主催側の支出項目には、船渡御・陸渡御費用、保安設備費、広報費、鉦流し神事費用、その他の費用が含まれている。そして、これらの合計金額は1億6,000万円となった。

表1 主催側の運営費

(単位：万円)

消費項目	消費金額
船渡御・陸渡御費用	12,000
保安設備費	1,300
広報費	300
鉦流し神事費用	30
その他	2,370
合計	16,000

データの出所：データは天神祭の関係者によるものである。

(2) 奉納花火大会の費用

新聞報道によると、天神祭2013の奉納花火大会では約4,000発の花火が打ち上げられる。他の花火大会のデータを参考にして、花火1発当たりの費用は10,000円と仮定する。推計の結果、奉納花火大会の費用は4,000万円となった。

表2 奉納花火大会の費用

(単位：円)

項目	金額
花火発数	4,000
花火1発当たり費用	10,000
合計費用	40,000,000

データの出所：

- ①花火1発当たり費用は、各所の花火大会のデータより著者が仮定したものである。
- ②花火発数は新聞報道によるものである。

(3) 一般観客の消費支出

天神祭の関係者によると、天神祭2012の一般観客は7月24日に16.8万人、7月25日に101.5万人、合計118.3万人に上り、大勢の観客が天神祭を楽しんだ。そして、宿泊観客と日帰り観客の比率を、それぞれ1%と99%と仮定すると、宿泊観客は1万1,830人、日帰り観客は117万1,170人となった。

表3 一般観客の人数

(単位：人)

項目	宿泊観客数	日帰り観客数	観客数
7月24日	1,680	166,320	168,000
7月25日	10,150	1,004,850	1,015,000
合計	11,830	1,171,170	1,183,000

データの出所：

①一般観客の総人数のデータは天神祭の関係者による。

②泊観客数と日帰り観客数は、大阪市内の各種のイベントなどのデータに基づいて、著者が推定したものである。宿泊率は1%と仮定して推計した。

一般観客の1人当たり消費額は表4で表している。表4の消費額は、以下の参考資料をもとに推計されている。交通費、宿泊費、飲食費、土産・買物代のデータは「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」（2011年3月、国土交通省）の主目的地を近畿とする場合の1人当たり消費支出額を参考している。

しかし、「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」の主目的地を近畿地域の場合1人当たりの消費支出項目には、交通費、宿泊費、飲食費、土産・買物代の他に、入場料・娯楽費の消費支出項目もある。しかし、一般観客は、奉納花火をはじめ天神祭を觀賞するために大阪に来ているので、他の観光施設に行かないと仮定し、入場料・娯楽費を一般観客1人当たり消費支出から控除している。

表4 一般観客の1人当たり消費支出

(単位：円)

消費項目	宿泊観客	日帰り観客
交通費	14,652	7,570
宿泊費	16,191	0
飲食費	7,931	2,790
土産・買物代	7,232	4,811
合計	46,006	15,171

データの出所：「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」（2011年3月、国土交通省）。

以上の分析から、大阪府における一般観客による消費支出額つまり直接効果は、日帰り客と宿泊客の人数を考慮すれば表5のようになる。つまり、大阪府における一般観客の消費支出額は総計183億1,207万円となった。

表5 一般観客の消費支出額

(単位:百万円)

消費項目	宿泊観客	日帰り観客	合計
交通費	173.33	8865.76	9039.09
宿泊費	191.54	0.00	191.54
飲食費	93.82	3267.56	3361.39
土産・買物代	85.55	5634.50	5720.05
合計	544.25	17767.82	18312.07

(4) 奉納花火大会の地域住民の消費支出

天神祭の奉納花火を紹介するホームページによると、奉納花火の観客は約130万人と推定される。一般観客の他に、大勢の地域住民観客が花火大会を楽しんだと考える。そして、その人数は奉納花火の観客130万人から、一般観客の101.5万人を除き、28.5万人と推定する。これらの地域住民観客は家や近所でビールなど冷たいものを飲み、冷菓を楽しみ、普段よりちょっと贅沢な飲食をしながら、花火大会を観賞していると想定される。この金額は、1人当たりの飲食消費支出に普段よりさらに約1,000円追加消費をしていると仮定した。推計した結果は表7にまとめている。表7に示されているように、奉納花火大会の地域住民観客の消費支出総額は2億8,500万円となった。

表6 奉納花火大会の地域住民観客数の推定

(単位:人)

項目	人数
奉納花火大会総観客数	1,300,000
一般観客数	1,015,000
地域住民観客数	285,000

表7 奉納花火大会の地域住民観客の消費支出

(単位:円)

項目	金額
地域住民観客数	285,000
1人当たり消費金額(飲食費)	1,000
消費支出合計	285,000,000

(5) 船渡御の一般乗船客の消費支出

天神祭の関係者によると、例年、船渡御の全乗船者は約10,000人である。全乗船者に乗船料有料の一般乗船客と乗船料無料の天神祭の関係者がいる。乗船料有料の一般乗船客と乗船料無

料の関係者はそれぞれ50%と仮定し、一般有料乗船客数を推定した。そして、宿泊一般乗船客と日帰り一般乗船客の比率は、それぞれ1%と99%と仮定すると、宿泊一般乗船客は50人、日帰り一般乗船客は4,950人、合計5,000人となった。

表 8 一般乗船客人数の推定

(単位：人)

項 目	人 数
宿泊一般乗船客	50
日帰り一般乗船客	4,950
合 計	5,000

一般乗船客1人当たり消費支出額は表9にまとめている。交通費、宿泊費、飲食費、土産・買物代のデータは「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」(2011年3月、国土交通省)の主目的地を近畿地域の場合1人当たりの消費支出額を参考している。乗船料金は天神祭に関連するホームページを参考したものである。

表 9 一般乗船客1人当たり消費支出

(単位：円)

消費項目	宿泊観客	日帰り観客
交通費	14,652	7,570
宿泊費	16,191	0
飲食費	7,931	2,790
土産・買物代	7,232	4,811
乗船料金	35,000	35,000
合 計	81,006	50,171

以上の分析から、船渡御の一般乗船客による消費支出額は表10のようになる。つまり、大阪府における船渡御の一般乗船客の消費支出額は総計2億5,240万円となった。

表10 一般乗船客の消費支出

(単位：百万円)

消費項目	宿泊観客	日帰り観客	合 計
交通費	0.73	37.47	38.20
宿泊費	0.81	0.00	0.81
飲食費	0.40	13.81	14.21
土産・買物代	0.36	23.81	24.18
乗船料金	1.75	173.25	175.00
合 計	4.05	248.35	252.40

(6) 陸渡御行事・船渡御行事の特別観覧席の観客の消費支出

天神祭では、天神祭の感動と興奮のライブ感を楽しめるために、陸渡御行事・船渡御行事の特別観覧席を設けている。関係のホームページによると、陸渡御の特別観覧席と船渡御の特別観覧席はそれぞれ300席と1,000席である。そして、宿泊観客と日帰り観客の比率は、それぞれ1%と99%と仮定すると、宿泊観客は13人、日帰り観客は1,287人となった。

表11 特別観覧席の観客数の推定

(単位：人)

項目	宿泊観客数	日帰り観客数	人数
陸渡御の特別観覧席の観客数	3	297	300
船渡御の特別観覧席の観客数	10	990	1,000
合計	13	1,287	1,300

特別観覧席の観客1人当たり消費支出額は、表12にまとめている。交通費、宿泊費、飲食費、土産・買物代のデータは「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」(2011年3月、国土交通省)の主目的地を近畿地域の場合1人当たりの消費支出額を参考している。特別観覧席の料金は天神祭の関連ホームページを参考したものである。

表12 特別観覧席の観客1人当たり消費支出

(単位：円)

消費項目	陸渡御宿泊	陸渡御日帰り	船渡御宿泊	船渡御日帰り
交通費	14,652	7,570	14,652	7,570
宿泊費	16,191	0	16,191	0
飲食費	7,931	2,790	7,931	2,790
土産・買物代	7,232	4,811	7,232	4,811
特別観覧席料金	5,000	5,000	7,000	7,000
合計	51,006	20,171	53,006	22,171

以上の分析から、特別観覧席の観客による消費支出額は表13のようになる。つまり、大阪府における特別観覧席の観客の消費支出額は総計2,862万円となった。

表13 特別観覧席の観客の消費支出

(単位：百万円)

消費項目	陸渡御宿泊	陸渡御日帰り	船渡御宿泊	船渡御日帰り	合計
交通費	0.04	2.25	0.15	7.49	9.93
宿泊費	0.05	0.00	0.16	0.00	0.21
飲食費	0.02	0.83	0.08	2.76	3.69
土産・買物代	0.02	1.43	0.07	4.76	6.29
特別観覧席料金	0.02	1.49	0.07	6.93	8.50
合計	0.15	5.99	0.53	21.95	28.62

(7) 周辺の高級・高額ホテルに宿泊する観客の消費支出

例年、天神祭の奉納花火の見える周辺のホテルでの宿泊は人気がある。帝国ホテル大阪をはじめ花火大会のために観客が宿泊するホテルは10軒と仮定した。

さらに、ホテル当たりの宿泊者数は150人と仮定している。推計結果、周辺の高級・高額ホテルに宿泊する観客合計は1,500人となった。

表14 周辺の高級・高額ホテルに宿泊する観客数の推定

(単位：人)

ホテル数	ホテル当たり宿泊者	合計宿泊者数
10	150	1,500

周辺のホテルに宿泊する観客1人当たり消費支出額は表15にまとめている。

表15 周辺の高級・高額ホテルに宿泊する観客1人当たりの消費支出

(単位：円)

消費項目	宿泊観客
交通費	14,652
宿泊費	60,000
飲食費	7,931
土産・買物代	7,232
花火観覧料	15,000
合計	104,815

注：①交通費、飲食費、土産・買物代のデータは「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」（2011年3月、国土交通省）の主目的地を近畿地域の場合1人当たりの消費支出額を参考している。

②宿泊費、花火観覧料については、「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」を参考しながら、帝国ホテル大阪が出した宿泊料金等を参考にしている。

以上の分析から、大阪府における周辺のホテルに宿泊する観客による消費支出額つまり直接効果は、表16のようになる。つまり、大阪府における周辺のホテルに宿泊する観客の消費支出

額は総計1億5,722万円となった。

表16 周辺の高級・高額ホテルに宿泊する観客の消費支出

(単位：百万円)

消費項目	宿泊観客
交通費	21.98
宿泊費	90.00
飲食費	11.90
土産・買物代	10.85
花火観覧料	22.50
合 計	157.22

(8) 天神祭スタッフの消費支出

天神祭の関係者及び関連ホームページによると、陸渡御の大行列参加者数は3,000人、ギャルみこし参加者は80人である。船渡御の参加者数は以下のように推定した。船渡御の乗船者10,000人から船渡御の一般乗船客の5,000人を引くと、船渡御の参加者（スタッフ）の人数は5,000人となった。陸渡御の大行列参加者、ギャルみこし参加者、船渡御の参加者を合計すると、天神祭スタッフの参加者は8,080人となった。

表17 天神祭スタッフ人数の推定

(単位：人)

項 目	人 数
陸渡御の大行列参加者数	3,000
船渡御の参加者数	5,000
ギャルみこし参加者数	80
合 計	8,080

さらに、他のイベントやまつりなどを参考にして、天神祭スタッフ1人当たり消費支出額は表18のように仮定している。

表18 天神祭スタッフ1人当たりの消費支出

(単位：円)

消費項目	消費金額
交通費	1,000
飲食費	1,000
人件費	8,000
合 計	10,000

データの出所：天神祭1人当たり消費支出額は著者の仮定によるものである。

以上の分析から、天神祭スタッフの消費支出額つまり直接効果は、表19のように総計8,080万円となった。

表19 天神祭スタッフの消費支出総額

(単位：百万円)

消費項目	消費金額
交通費	8.08
飲食費	8.08
人件費	64.64
合 計	80.80

(9) 出店スタッフの消費支出

天神祭の関係者の話によると、天神祭の出店数は約500店である。1店当たりの店員は2人から3人程度であり、1店当たりのアルバイトは1人から2人である。これらの数値を参考に、天神祭の出店数を500店、1店当たり店員数を3人、1店当たりアルバイト数を2人と仮定する。推定の結果、出店スタッフは合計2,500人となった。

表20 出店スタッフ人数の推定

(単位：人)

項 目	店数・人数
出店数	500
1店当たり店員数	3
1店当たりアルバイト数	2
出店スタッフ合計	2,500

さらに、他のイベントやまつりなどを参考にして、出店スタッフ1人当たり消費支出額は表21のように仮定した。

表21 出店スタッフ1人当たりの消費支出

(単位：円)

消費支出	消費金額
交通費	1,000
飲食費	1,000
人件費	8,000
合 計	10,000

データの出所：著者の仮定によるものである。

出店スタッフによる消費支出額つまり直接効果は、表22のようになる。つまり、出店スタッフの消費支出額は総計2,500万円となった。

表22 出店スタッフの消費支出

(単位：百万円)

消費項目	消費金額
交通費	2.50
飲食費	2.50
人件費	20.00
合 計	25.00

(10) ボランティアの消費支出

天神祭には数多くのボランティアが参加した。天神祭の関係者によると、天神祭2012のボランティアの人数は120人であった。

ボランティア1人当たり消費支出額は「なにわ淀川花火大会の経済波及効果」を参考に、表23のように仮定する。消費支出額は交通費と飲食費が含まれており、合計3,000円であった。

表23 ボランティア1人当たりの消費支出

(単位：円)

消費項目	消費金額
交通費	1,000
飲食費	2,000
合 計	3,000

ボランティアによる消費支出額つまり直接効果は、表24のようになった。表24に示されているように、ボランティアの消費支出額は総計36万円となった。

表24 ボランティアの消費支出

(単位：百万円)

消費項目	消費金額
交通費	0.12
飲食費	0.24
合 計	0.36

(11) 警察関係者の消費支出

天神祭に警備関係で警察官が出動していた。「なにわ淀川花火大会の経済波及効果」によると、なにわ淀川花火大会は花火観客が約60万人、警察関係者が1,500人であった。そして、2012年の天神祭の奉納花火大会の観客が101.5万人であった。すなわち、天神祭の奉納花火大会の観客数はなにわ淀川花火大会の観客数を大幅に超えている。これらを参考に、天神祭の警察関係者はなにわ淀川花火大会の警察関係者の2倍の3,000人と仮定する。

警察関係者1人当たり消費支出額は表21出店スタッフ1人当たり消費支出額と同じと仮定する。

警察関係者による消費支出額つまり直接効果は、表25のようになる。つまり、警察関係者の消費支出額は総計3,000万円となった。

表25 警察関係者の消費支出

(単位：百万円)

消費項目	消費金額
交通費	3
飲食費	3
人件費	24
合 計	30

(12) 報道関係者の消費支出

「なにわ淀川花火大会の経済波及効果」によると、なにわ淀川花火大会の報道関係者は50人であった。そして、天神祭奉納花火大会の観客は「なにわ淀川花火大会」を大幅に超えていて、天神祭の開催は2日間であり、テレビ大阪の中継もあることなどのことを参考にして、天神祭の報道関係者は200人と仮定する。

報道関係者の1人当たり消費支出は他のイベントを参考に、表26のように仮定する。消費支出額は交通費と飲食費が含まれ、合計15,000円となった。

表26 報道関係者1人当たり消費支出

(単位：円)

消費項目	消費金額
交通費	10,000
飲食費	5,000
合 計	15,000

推計の結果、報道関係者の消費支出額は表27のようになる。総額は300万円となった。

表27 報道関係者の消費支出

(単位：百万円)

消費項目	消費金額
交通費	2
飲食費	1
合 計	3

第3節 直接効果の総計

以上の分析より、大阪府における天神祭2013の観客及び参加者の総消費支出と大会運営費、奉納花火大会費用の直接効果の各項目の金額と総計の額は表28のようになる。表28に示されたように、大阪における直接効果の総計は193億7,447万円となった。

表28 直接効果の総計

(単位：百万円)

消費支出	消費金額
大会の運営費	160.00
奉納花火大会の費用	40.00
交通費	9124.91
宿泊費	282.56
飲食費	3691.01
土産・買物代	5761.36
花火観覧料	22.50
特別観覧席料金	8.50
乗船料金	175.00
人件費	108.64
合 計	19374.47

第4節 経済波及効果

これまで計算した直接効果を、「平成17年大阪府産業連関表」に按分して、大阪府における経済波及効果を推計する。産業連関表への按分は表29で示される。

表29 産業連関表への按分

消費支出	産業連関表への按分
大会の運営費	対事業サービス
奉納花火大会の費用	対事業サービス
交通費	運輸業
宿泊費	対個人サービス
飲食費	対個人サービス
土産・買物代	対個人サービス
花火観覧料	対個人サービス
特別観覧席料金	対個人サービス
乗船料金	対個人サービス
人件費	対個人サービス

「平成17年大阪府産業連関表」を用いて、大阪府における天神祭2013の経済波及効果を計算すると約229億円となった。さらに、粗付加価値（単純に言えば儲け）は約133億円にのぼった。

一次波及効果とは、観客の消費金額や運営費などの直接効果の原材料の売上増加額のことである。例えば、観客が飲食をすると、その食事の材料である米、肉、野菜、魚などの売上金額が増加する。それらの売上増加金額を一次波及効果と呼ぶ。さらに、二次波及効果とは、直接効果、一次波及効果で売上が増加した企業や店舗の収入が増加した場合、それらの企業や店舗の経営者、従業員、アルバイトなどの関係者の収入が増加する。それらの所得増加が消費に向かった時の消費増加金額を二次波及効果と呼ぶ。これらの直接効果、一次波及効果、二次波及効果を合わせて、経済波及効果と呼ぶのである。

表30 大阪府における経済波及効果

（単位：億円・人）

項目	生産創出	雇用創出	粗付加価値創出
直接効果と一次波及効果	196.35	2,073	113.60
二次波及効果	32.67	214	18.90
合計	229.02	2,287	132.50

第5節 結論

大阪府における天神祭2013の経済波及効果は約229億円、そして、付加価値は約133億円となった。なお、大阪府内における第24回なにわ淀川花火大会（2012年8月）の経済波及効果は、約108億円であった。

これらの推計結果からわかるように、天神祭は大阪の伝統文化を地域の人々の手によって受け継がれていく一大イベントであるのみならず、大阪府の観光振興や地域の活性化に大いに貢献しているということが立証された。

〔参考文献〕

1. 宮本 勝浩、「『経済効果』ってなんだろう?」、中央経済社、1012年。
2. 宮本 勝浩、韓 池、「経済波及効果の理論分析」、『現代社会と会計』、第7号、145-154ページ、2013年3月。

※本報告では、計算の都合上四捨五入しているため、合計額の最後の一桁が合わない場合があることをご承知ください。

※本報告書作成にあたり、関係各位から多くの参考資料をいただきました。ここに感謝する次第です。